

# 第62回東海北陸保育研究大会「愛知大会」

## 報 告 書

配信期間：令和3年9月1日（水）～30日（木）



主催：愛知県 名古屋市

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

東海北陸ブロック保育協議会

## 第7分科会

### 「保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会に発信するか～」



#### 【助言者】

椋山女学園大学教育学部 教授 石橋尚子

#### 【意見発表者】

愛知県 明照保育園 園長 中島章裕

主幹保育教諭 中島美奈子

富山県 東山保育園 事務長 竹田弘征

#### 【報告者】

愛知県 猿渡保育園 園長 北村信人

#### 1. 発表内容

##### 『多職種が集う公開保育・交流の取り組みと、ここからの展望』

(愛知県 明照保育園 園長 中島章裕

主幹保育教諭 中島美奈子)

少子化や核家族化が進む中、社会における人と人、とくに子どもとおとなが繋がる場面が少なくなりつつあり、子育てへの関心低下にもつながっている。ここでは、子育て家庭や保育関係者にかぎらず、すべての人が子どもや子育てに関心をもつ取り組みが、安心して子どもを産み育てることができる社会づくりをするために、園の地域にむけた様々な活動の実践報告がされた。取組として、園庭開放、親子広場、子ども食堂、フリースクール、なかよし保育、おやくる、園行事など小学生、子育て中の親、地域の人を園に招き、園での営みを知っていただき興味を持っていただくことで、保護者との連携が深まっている。また、出前保育、地域行事参加など園児に自分も社会に生きる存在であることの芽生え、地域の人にも子どもと繋がりをあえることを知っていただく機会になっている。「保育を社会に発信する」をテーマに「かってに公開保育」を実施し、多職種、各専門分野の方々と顔を合わせての意見交換を行うことで、幅広い多職種との連携ができ、研究活動や地域活動に活かされている。

#### (質疑応答)

- ・ かってに公開保育の参加者は何人。  
H27年33名のスタート、その後学生の参加などがあり、66名ほどが参加している。
- ・ 自粛期間の動画配信について動機、取り組み方法などはどうしているか。  
映像による園だよりを日常として30年くらい行っていたので、配信のハードルが低かった。また、日常の配信を中心に、無理なく実施することを大切にしている。
- ・ うちの園で行うためのポイントは  
園の中で無理をしないで職員間で共有する、別物でなく一緒に行うことが大切。
- ・ コロナ禍の取り組みについて  
園行事は出来栄よりもそのプロセスもとても重要であるので、対策を行ったうえで、保護者の方々に十分な理解をしていただき行っている。

##### 『地域との交流こそが保育の発信に繋がる』

(富山県 東山保育園 事務長 竹田弘征)

地域の方々の声を大切に、地域の子育て拠点を目指し、H22年度学童クラブ(35人)、H24年度子育て支援センターを開設し、多くの方に利用されている。

「地域交流こそが保育の発信に繋がる」をテーマに、小学5年生を招いての交流や、小学校の運動会参加、体験入学などを実施し、これが就学をスムーズにしていると感じている。また、中

学3年生との交流では、学生の生き生きと姿が見ることができ、それぞれにとって良い交流ができていたと感じた。富山県は職場体験、「14歳の挑戦」を実施している。前段階として、地域の職を学ぶ「13歳の学び」があり、職場体験へと繋がっている。

地域との関わりは、名産の「梨」とおした農園の方との交流、事故「なし」作戦への参加、老人ホーム、地域資源の活用など、地域個性を活かした取り組みを行うことで、園また園児を知っていただくだけでなく、子どもが地域一員であることを知る機会になっている。

#### (質疑応答)

- ・ 小学生、中学生が園児との交流で、どのような効果が見られているか。  
子ども同士のあいさつなどが多くみられて、具体的にはわからないが何らかの効果があるように感じている。
- ・ 本物を体験することはとても良い活動です。どうやってその方々と繋がっているのか。  
園長の人脈を生かしてお願いしている。また、発表する機会を設けている。
- ・ コロナ禍の取り組みについて  
小中学校の取りくみについては中止しているが、行事の縮小、分割しながら行っている。

#### 2. 講評の内容

社会化とは、①諸個人間の相互採用により社会が形成されていく過程。②個人が集団の構成員として適合するようになること。③私的な形態から社会的・共同的な形態に変えること。と、されている。しかし、保育や子育ては、単純に共同・集団的になるのではなく、育ちが伴うものである。子どもが所属する集団の成員として必要な規範・価値意識・行動様式を身につけるといった社会的プロセスを含むものであり、子ども同士、大人同士、大人と子供の相互的なかわりによって社会が形成される過程でもある。

本分科会は、少子化・核家族で、人間関係の希薄化、子育ての孤立化などによる諸問題を、保育・子育ての社会化を推し進めることで、改善の一つなのではないか。

人口統計から、2065年には戦後の人口と同じになるなど、この国の在り方が変わってくる。日本人の人間関係の意識変化は、一番大切なのは家族関係が増加しているが、地域とのつながりは18%と減少してきており、地域との気迫化、孤立化などが進んでいる。しかしながら子育て不安は、地域とのつながりが多い人ほど不安感が少ないとの結果がある。保護者の希望は、①子どもの防犯のための声掛けや見守り②子育て相談が気軽にできる人と場所③親の仲間づくりの場④一緒に参加できる地域の行事やお祭り⑤子育てに関する情報を提供する人や場があげられている。これらのことから、保育者の役割は大きいと感じる。

子どもの育ちにとって地域とのつながりは、将来どんなおとなになりたいか、地域の文化や特色、人との関わり方を学び、信頼できる大人の中で安心して育つことができることにつながる。保育の営みを社会へ発信するために、子どもの営みを家族に発信する。また多職種への発信・連携、活用をすることで、子育てに関心のない人にも伝わっていく。地域との防災訓練をとおして、子どもたちの様子を知らせることを実施している地域もある。すべての子どもを社会の宝にするために、気になる子どもや家族への支援も必要である。例として保育コンシェルジュ、湖南市発達支援室のような乳児期から就職までの一貫した支援の取り組みが行われている。

「保育の営みを地域社会にどのように配信するのか」の課題は、PDCAサイクルを利用し、それぞれの地域の特色を活かしながら、どのような施設として位置づけ、親しまれ、社会に貢献できるのか、現状の保育を見つめることから始まるのではないかと。また、保育のフィールドは園内だけではなく、保育者は適切なコーディネーターでなければならない。そこで、日々の保育を見つめなおしの重要性が見え、日々の保育の良さに気づくでしょう。それを、保育のプロとしてすべての人に発信しましょう。

保育の営みを地域社会に  
どのように発信するのか

保育施設として地域社会に  
どのように位置づけるのか

子育て支援の拠点として  
子どもについての学びの場として  
子育てについての学びの場として  
地域コミュニティの中核となり世代間をつなぐ場として  
発達支援ネットワークの一員として  
虐待防止ネットワークの一員として